

第2回ワークショップの結果概要

1 8つの視点について

1) 視点と課題について

- 基本、視点については網羅されていると思う。

■ ②地域資産の活用

- 「豊富な地域資源を活かしきれていない」という表現では、マイナス面の評価ばかりになってしまうので、プラス面からも評価できるような表現に工夫できると良い。

2) 課題解決の方向性について

■ ①地域性の考慮・③地域コミュニティの維持

- 八尾地域は、中山間地があり、面積が広い地域でもある。コミュニティの維持や災害時の避難所のことを考えると、集会施設は単純に地区ごとに1施設とするのではなく、地域性や地形等を踏まえて検討をするといった内容を盛り込んでほしい。

■ ④子育て環境の充実

- 高齢化に伴い、新たに子育て世代が移住することが難しくなっているように思う。子育てしやすい地域といった内容も入れてほしい。
- 子どもの居場所については、特に屋外の遊び場等が足りていないので、子どもが遊べる公園や、広場等の屋外施設を整備してほしい。既存のグラウンド等の充実や、中学校跡地を緑地やスポーツ公園として活用できないか。

■ ⑤安全性の確保

- 地区によっては、災害時、実際に避難所指定された施設ではなく、より安全と考えた他の施設に自主的に避難した人もいた。今後、避難所を指定する際には、民間施設等も視野に入れてほしいし、避難所への移動のしやすさ等アクセス面についての項目も入れてほしい。

■ ⑦運営の工夫

- 「各公共施設の知名度が低く、稼働率も低い」とあるが、稼働率を増やすためには、他県からの観光客を呼び込むなど、広域的な取組みが必要になってくると思う。そういった視点を盛り込みたい。

2 用途別方針案について

1) 集会施設

■ 全般

- 地区ごとの文化などの特徴を守り、中山間地の衰退を防ぐためにも、9地区ごとに集会施設を存続する方向性は良いと思う。

■ 八尾公民館

- 八尾公民館は現状では稼働率が低いが、新しくなれば稼働率は上がるのではないか。
- 前回のワークショップで、八尾公民館に行政機能を集約してはどうかという意見があったが、広い範囲の地区の方々が訪れる施設なので、十分な駐車場スペースが必要になり、現実的ではないように思う。

■ 保内公民館と杉原公民館

- 前回のワークショップで、両公民館の集約の話が出ていたが、それぞれ人口が多い地区なので、統合するのは難しいと思う。

■ 黒瀬谷公民館＋黒瀬谷交流センター

- 黒瀬谷公民館を黒瀬谷交流センターに集約することは理解できるが、その場合、単純に公民館を廃止して集約するのではなく、「～機能を充実した上で集約する」としてほしい。具体的には、年配の方が利用しやすくなるよう、和室を設置してほしい。
- 黒瀬谷公民館を黒瀬谷交流センターに集約した場合、部屋数が増えないのであれば、現在よりも利用しにくくなるだろう。小学校の余裕教室活用等も併せて検討していきたい。

■ 卯花公民館＋八尾農村環境改善センター

- 卯花公民館と八尾農村環境改善センターは、同じ地区にあるために集約化の方針なのだろうが、卯花公民館は地区の中心部にあり、八尾農村環境改善センターとは離れている。八尾農村環境改善センターに集約化する場合は、地域住民の理解が得られるか懸念がある。
- 両施設の集約化については、利用者や地区の方が困らぬように十分に意見を聞いた上で、集約化をしてほしい。
- 両施設は、少し離れている。どちらかに集約化されると、アクセスが負担になる高齢者等が出てくるだろう。両施設とも老朽化が進んでいることもあるので、これを機にできるだけ多くの地区住民が困らない、アクセスしやすい立地に建て直すことはできないか。
- いずれの建物も古いので、どちらに集約化するにしても災害時の安全性が心配である。集約化する場合は、耐震面等の安全性を確保してほしい。

■ 八尾農村環境改善センター

- 体育館等のスポーツ施設や各部屋があるが、他は土地改良区が入っているだけである。中心部の施設に複合化するか、機能自体をなくすことを検討してはどうか。
- 土地改良区の事務所があり、公民館とは趣が異なる。稼働率も良く、公民館とは離れた距離にあるため、集約化せずに両施設ともに残した方が良いと思う。

■ 八尾ふらっと館

- 駐車場が小さいために、人が多く集まるイベントの開催には不向きだろう。
- 八尾の街を回遊して楽しんでもらえるようにしたい。ふらっと館の2階のスペースが空くのであれば、そこを活用して新たな回遊ポイントにできると良い。

- 図書館東町分館が本館に集約化された場合は、2階の空きスペースを行政サービスセンター機能の一部として利用したり、美術保存館の作品や化石資料館の資料を展示するなどして、有効活用できないだろうか。
- 美術保存館の作品や、化石資料館の資料を展示する専用スペースの整備が難しいのだとしたら、行政サービスセンターなどを移転し、ロビーや廊下で絵や化石に関する資料を展示すると良い。
- 若者向けにシェアオフィスや起業支援など、ビジネス系の複合的施設にできると、現在の商工会との相乗効果も図れるのではないか。

2) 文化施設

■ 八尾コミュニティセンター

- 八尾コミュニティセンターは、コミュニティセンターという名称ではあるものの、地域の人が集会などで使う場所ではない。
- おわら風の盆などのイベント時に利用するには場所が離れているし、地域の北側にあるので、日常でも活動拠点の中心部になるとは言い難い。
- 八尾コミュニティセンターは、様々な催事で利用されていて地域の核となっている。近くに中学校が新設されることもあるので、自然と活性化し、機能も充実するだろう。
- スポーツアリーナと一体管理したり、スポーツアリーナや新設される中学校と連携をとって施設を利用し合えたりする方が活用の幅が広がり、良いのではないか。

■ 八尾コミュニティセンター分館・杉風荘

- 市が所有していると、管理費や老朽化による改修費が発生するので、早く民間に売却や譲渡等した方が良い。その方がより良い活用ができると思う。
- 歴史的に価値がある建物であることから市が所有していると思うので、利用率が低いからすぐに売却、譲渡ということは良くないのではないか。売却することで、すぐ建物が解体され、かえって周辺の住民が心配するような活用がされてしまうかもしれない。
- 「売却や譲渡等による民間のノウハウの活用」が方針となっているが、異なる意見もある。建物を維持し、幅広い層が利用できる活用方法や周知方法を検討することで利用率の向上を図りたいことは、皆、合意できていると思うので、「～民間ノウハウの活用など地域の資源として再活用する方法を検討する」という表現にしておいた方が良いのではないか。

3) 図書館・博物館等

■ 八尾図書館十八尾東町分館

- 分館が本館に集約された場合、今よりも本が少なくなってしまうのではないかと。また、図書館は、本を読んだり借りたりするだけの施設ではなく、子どもたちの学習スペース機能もあるため、できれば集約してほしくない。
- 分館を本館に集約化するのは理解できるが、ただ、数を減らすという考え方ではなく、これまでの分館の学習スペース機能を追加するなど、工夫することでより図書館としての魅力を高めていく可能性を探りたい。
- 分館を本館に集約化するのは理解できるが、本館の学習スペースは満員で利用できないことが多く、分館の学習スペースを利用している中高生がいるので、学習スペースの総量は確保してほしい。

■ 八尾美術保存館

- 美術保存館については、今後の方向性案（中長期）についても、短期的な取組みについても、理解できる。
- 美術保存館については他の施設、例えば、健康福祉総合センター、八尾コミュニティセンター、おわら資料館等へ集約し、作品を常に展示した方が良いと思う。

■ 八尾化石資料館

- 短期的な取組みとして、「～民間活用の導入などにより、あり方を見直す」とあるが、消極的な表現である。企画や展示物はおもしろいので、「～民間活用の導入などにより、継続的に開館できるように検討をするなど、運営について工夫を図る」としてはどうか。
- 化石資料館は、集約化してよいと思う。化石を科学博物館の化石のコーナーと一緒に展示したり、神通川水辺プラザに展示するのが良いのではない

か。神通川水辺プラザは神通川の化石が発掘された近くになるので、立地的にも良い。また、観光客が多いエリアにあるふらっと館の2階などに展示しても良いだろう。

4) スポーツ施設

■ 全般

- スポーツ施設をよく利用しているため、廃止という方針ではなくて安心した。

■ 八尾スポーツアリーナ

- スポーツアリーナは現在、室内競技の設備のみだが、屋外競技の施設も整備することで、総合的なスポーツ施設として中心となる可能性がある。
- スポーツアリーナが総合的なスポーツ施設となり、人がたくさん来ると、隣接する中学校の防犯面が心配である。

■ 八尾ゆめの森テニスコート

- 八尾ゆめの森テニスコートとゆうゆう館は、夏には大学の合宿等でよく利用されている。両施設で連携してPRをすると良いと思う。

■ 八尾パインパーク・八尾サンパーク

- 八尾パインパークと八尾サンパークは、両施設ともに多目的グラウンドがあるため、中長期的には面積が広いパインパークにグラウンドを集約しても良いかもしれない。また、短期的にはサンパークの利用率を踏まえた上でナイターをやめても良いのではないかと。
- 利便性やアクセス性を向上するために移転、集約化等を行う際、八尾中学校跡地など、既存施設のグラウンドの活用などを検討してはどうか。

5) レクリエーション・観光施設

■ おわら演舞場

- 八尾地域は、おわらのまちということもあるので、魅力を打ち出すために演舞場を新設するという方法もある。

■ おわら資料館・曳山展示館

- 両施設をどちらかに集約化、複合化すると良いという意見があるが、それぞれの施設ともに役割が異なるし、連携もうまくとれている。ハード面の整備にこだわるよりは、運営母体をひとつにする等、ソフト面での効率化を図ったらどうか。

■ ほたるの里農村公園

- ほたるの里農村公園は、「～運営を見直し、廃止も含め、あり方を見直す」という方針だが、地元の若者が運営に関わり始めたことで運営が良くなってきている。PR等を工夫して集客を図っている段階なので、“廃止”という表現は避けて「～運営を見直し、活性化する」といった表現にしてほしい。
- 富山市だけで利活用のアイデアを出すのは難しいので、民間からアイデアを募るなどして、今後のあり方を検討してほしい。

■ 神通川水辺プラザ

- 神通川水辺プラザのパークゴルフ場は、無料だが、施設維持に貢献できるのであれば100円程度の使用料をとっても良いと思う。また、休憩所やカフェなどを設置しても良いだろう。

■ 白木峰山麓交流施設

- 白木峰山麓ラインガルテンと隣接していることもあるので、「民間または地元団体が運営を行い、施設の活用促進のため、譲渡などを検討する。」

と合わせた方が良いのではないか。

■ 八尾ゆめの森（ゆうゆう館一帯）

- ゆうゆう館のお風呂の年間パスがなくなり、高齢者の利用が減少した。
- 以前は、木工教室などの様々なイベントをしていたが、現在はやっておらず、滑り台もなくなったことで子どもの遊び場がなくなってしまった。親子で参加できるイベントの実施やバーベキュー場などがあれば、ファミリー層の利用者が増えると思う。
- パークゴルフが流行っているので、パークゴルフ場を整備したらどうか。運動後にお風呂に入ったり、食事や休憩もできて良いし、活性化につながるだろう。

6) 産業計施設

■ 白木峰山麓体験農園

- 白木峰山麓体験農園については、民間のアイデアを活かしていけると良い。また、譲渡する際は、市が修理等した上で譲渡できると良い。

7) 学校

■ 全般

- 方針は理解できたが、八尾小学校は、地域性の異なる地区の学校を統合したという経緯がある。小学校の統廃合や適正配置については、地域の意見を重視し、経緯や地域性をよく理解した上で進めるべきである。

■ 榎尾小学校

- 榎尾小学校は、保護者等からの反対があって存続した経緯があるが、当時よりもさらに児童数が減少しているため、閉校はやむを得ないのではないかと。

8) 幼保・こども園

■ 全般

- 短期的取組みは、「八尾地域の実情に合わせて検討を行う」という方針にして良いのではないか。
- 今は自宅近くの保育所に通うという考え方ではなく、それぞれの保育所の教育方針を踏まえた上で選択をしている。その結果、他の地域の保育所に通わせている場合もある。
- 少子化により施設規模を縮小したり、民営化することは仕方がないことかもしれないが、黒瀬谷保育所のような園児数が少ないことで民営化が難しい保育所については、市が責任をもって運営をしてほしい。

■ 八尾保育所

- 送迎時に渋滞が起こりやすく子ども達が危険であるため、安全面への配慮をしてほしい。

9) 保健施設

- 健康福祉総合センターに市民サービス機能、福祉サービス機能、教育センター機能を複合化することで、施設を充実できると良い。

10) 庁舎等

- 健康福祉総合センターと複合化の方向で良い。アクセス面で考えると、コミュニティバスが通っている健康福祉総合センターに行政サービスセンターを集約するのが良いと思うが、健康福祉総合センターにその他の機能も集約する場合は、面積が足りるのだろうか。
- 健康福祉総合センターへ集約して良いと思うが、現在、福島地区住民は、行政関係の事務手続きで行政サービスセンターを利用しているため、集約することで福島地区住民にとって不便のないように、対策を検討した上で進めてほしい。

- 市民サービスと福祉サービスの窓口が分散すると、両サービスを利用する住民も職員も不便である。特に高齢者は混乱し、アクセスも不便になることから、1カ所に集約した方が良い。
- 跡地は、人口増を目指して、宅地造成して分譲地としてほしい。
- 図書館分館を入れるなどして、子ども達にも利用してもらえるようにしたい。

3

その他

- そもそも東京に雇用が集中していることが人口減少の原因につながっていることから、このような話し合いをする前に、富山市が責任を持って働く場をつくるよう、積極的に企業誘致等を働きかけるなどしてほしい。まずは、雇用の創出を目指して取り組むべきなのではないだろうか。
- 中学校が統合、移転すると、人の流れや活動範囲が変わるだろう。隣接する図書館やスポーツアリーナなどは影響を受けることが予測できるため、移転後、ある程度状況が見えてからワークショップを開催した方が良かったのではないか。
- 八尾地域のことを一番良く知っているのは私たち住民である。大切にしたいことや残していきたいことをワークショップでしっかり出し、話し合っていきたい。
- 八尾地域は合併前に公共施設をたくさん増やしたが、今、改めて必要性を考える時期にきていると思う。
- 富山市として損益分岐点の指標を出すことで公共施設を減らす根拠を示したり、八尾地域のどこのエリアに力を入れて整備するのかを提案した上で進めた方が良い。
- 人口減少が避けられない地区は、コミュニティの維持や防災上の視点から、残すべき施設があると思うが、その結果、残す必要性がないと判断された他施設については、人口が集中している地域の中心部に集約すれば、

利便性の向上や稼働率アップにつながるのではないか。

- 自治会の公民館に集まってから指定された避難所へ移動するのか、各々が自己責任で避難所まで移動するのか、地区ごとに避難時のルールを設定した方が良いのではないか。大雨や地震、土砂災害など災害の種類に応じて避難ルートや避難場所も変わってくるため、地区ごとに対応策を検討する必要があると思う。

■ 質問

- 建設中の八尾公民館内に、地区センターを設けるのか。
- 利用者数等のデータの誤りにどうやって気付いたのか。住民は市から出されたデータを信じて検討している。同じ間違いを繰り返さないために要因を探してほしい。